

## グリーン連合勉強会

# 「農業、食料と気候変動の現状と課題～有機農業、 生物多様性も考え、私たちにできることを共有しよう～」

2024.12.10 篠原 孝

### 1 消える作物・風景（長野県北部の事例）

(1) 養蚕業・桑畑 1930年代中頃、一夜の間に忽然と姿を消す（cf 但し、南部では1980年代まで残る）

- a. 生糸の輸出商品でなくなる
- b. りんごの導入、消毒に弱い蚕
- c. 岡谷：○生糸・絹織物から軽薄短小・電機産業へ ex セイコーエプソン  
須坂：×落下傘の富士通→撤退、2024年 公害ショッピングセンター
- d. 北信：○果樹へ

東信：○盆地（果樹）、○高地（高原野菜）

南信：養蚕に固執、飯田市はリンゴの並木で有名だが生産せず

大来佐武郎（元首相）塾（1990年）の対応は養蚕青年部、篠原参加して驚く

松沢太郎市長翌週中野市視察、飯田でもりんご、桃、ブドウ導入

→長野県県間の南北戦争、1週間早く出荷できる南信が有利

(2) 菜の花畑に入り日薄れ（高野辰之）の詩どおり満面黄色

- a. 最大面積 1956～57年 25万ha、最大収量 32万t
- b. 水田はナタネもレンゲ（ピンク）→水田酪農 1～3頭
- c. 春の写生会：青、白（空）、緑（山・畑）黄（山麓、水田）、桃（水田）
- d. 世界でナタネを捨てた愚かな国なし

5～6月収穫で、その他の作物との2毛が可能

- e. UR時 米EUの油糧種子戦争（ガットパネル）
  - ・EUは小麦を守り、油糧種子を捨てる。米から大豆、ナタネを輸入
  - ・小麦の収量が農林10号→ボーローグ博士（ノーベル平和賞）が指導し緑の革命 →  
単収量 250kg→500kg
  - ・畑が余る→一旦下げた油糧種子関税を上げる
  - ・アメリカ・ガット違反で提訴⇔EU輸出補助金をつけて小麦を輸出するよりも、大豆、ナタネ、ヒマワリの国内生産の復活が理に合う
  - ・EUの勝利、ヨーロッパは空からみると春はナタネ、夏はヒマワリ
  - ・虫媒花、蜂が狂い「沈黙の秋」のおそれ  
→ネオニコチノイド農薬禁止

f. 菜の花議連：会長 石破茂、幹事長 篠原孝

- ・ 朧月夜、菜の花畑の高野辰之は中野市（旧豊田村）
- ・ 春の小川、もみじ、ふるさと
- ・ 上記全国の作曲は岡野貞一（鳥取）

(3) 農家の周りから家畜がいなくなる

a 鶏

- ・ 1960年代、長野県 20万戸農家のうち 17万戸 鶏小屋 10~20羽  
庭先養鶏、卵貯金、食品ロスゼロ、堆肥の山
- ・ 母校小学校4年生が、最後の庭先養鶏の篠原実家を訪問（2010年頃）
- ・ ニワトリを見たことがない。農村の子供たち→4本足を描く
- ・ 小学校の生き物も強烈な臭いを嫌い、ニワトリ少ない  
→ウサギ、山羊が多いのでは？

b 牛

- ・ 役牛、田おこし、リアカーを引っ張る
- ・ 家族の一員 玄関入ると左側がおかって、花の間、右側牛小屋
- ・ 1960年代 ガーデントラクター（ガートラ、豆トラ）の普及で一斉にいなくなる
- ・ 賢い牛は私をバカにして言うこと聞かず、祖父には従う  
牛小屋からばくろうに売られるときは涙して大騒ぎ

c 山羊

- ・ 山羊の乳は栄養源
- ・ 夕明かりに、草を刈り、牛、山羊、羊に与える
- ・ 春先は、子羊を抱いて田畑へ、周りの草をたべさせる

d 豚

- ・ 専門的農家が数頭飼う

×採卵鶏・ブロイラーは約2000経営体、農家か？

- ・ 秋田フーズ 吉川貴盛農相への収賄
- ・ 世界一の規模 cf フランスは味を大切にする
- ・ ウィルスフリー、ケージ飼い、非鶏道的飼育
- ・ 動物愛護団体から批判
- ・ EU、とっくの昔からケージ飼いの禁止→ニワトリ1羽当たりの面積の規制
- ・ フランスは平飼いが原則、農家民宿のトモの声
- ・ フォアグラとの矛盾（言い訳、文化？）

×豚 ・世界一の規模は鶏と同じ

- ・ 加工畜産（飼料穀物を輸入して肉にする）  
Cf 加工貿易立国（鉱物資源を輸入して工業製品）  
違いは、輸出がないだけ

×酪農 ・ついに1万戸を割る（2024/10 9960戸、前年比5.7%減）  
2005以降初 2008年2万戸以上

- ・資材価格の高騰で生産費 110.6 円/1 k g 5 年前と比べ 25%増
- ・24 年 1~9 月の平均飼料価格 4 割上昇、価格は 2 割上昇のみ
- ・牛乳を作る機会としか考えられない哀れな牛
- ・c f 今や一大装置産業、1 億円の設備投資
- ・いつも乳牛が足りなくなり、バターが不足
- ・学校給食のない夏休みに乳価安
  - 産業は夏の暑さで落ちる 冬の生産量多く困る
- ・cf NZ 草地酪農
  - 冬は酪農家も乳牛加工メーカーも休業
  - これが魅力で若者が酪農に参入
- ・世界の政治家は皆、農家を守ろうとする
  - b / c 朝夕搾乳し勤勉な農家の象徴
- ・米中西部は、若手農民は酪農から入り、金を貯めて農地を買い、穀物農家に転身

×肉用牛・放牧地なく、圧倒的に不利

- ・豚と同じ飼育、畜舎の中だけ、運動させず
- ・奇形牛（奇形豚、奇形牛肉を食す日本人）
- ・ひたすら高級化の途しかなく、神戸ビーフ
- ・和牛輸出は花形か？
- ・2000 年マーストリヒト、持続的農業ワークショップの地産地消論争（篠原 v s N Z）
  - （12 月のイチゴ、キリスト教、日の丸）

2. 20 年後には、中山間地域、都市近郊から水田（稲作）が消える

(1) 2024 年のコメ不足の原因

- 円安でコメ以外の食品（特に輸入に係わる）は大半が値上がり
- 農家のためには、コメこそ値上がりしてほしいのに、24 年前半では微動だにせず
- 突然スーパーの棚からコメが姿を消した
  - ・23 夏猛暑の品質低下で出回り量減少
  - ・8/8 南海トラフ地震の臨時情報→コメがなくなる不安、買い溜め
  - ・インバウンドの増加、3000 万人が日本食を食べると 4~5 万トンも需要増
  - ・僅か数万トンで価格が動く、価格弾性値が高い
  - 大半の消費者はそれほど騒がず、×将来も不安視せず
  - 年内契約の飲食店、外食チェーンは影響なし

(2) 平均年齢 68 才→20 年後 88 才

- 人生 100 年時代でも、90 代はコメ作できず
- 団塊の世代（1947~49 生まれ）までは、ふるさとに戻り、水田を守る気概あるも団塊ジュニアはその気なし
- 兼業農家が採算度度外視して耕作している

- (3) コメ価格は値上がりしても、他と比べものにならず
- シャインマスカット、クイーンルージュ、ナガノパープル（ぶどう三姉妹）は作る
  - 高級果物、野菜とは雲泥の差
  - 馬鹿らしくて、作る気せず

- (4) 基盤整備（大規模化可能地域のみ）は一部のみ
- 平場は僅か、大半が傾斜地（ex 長野県）
  - 大規模水田には大農業機械が必要
  - 地方の土木建設会社が潤うだけ→2人の参議院議員

- (5) ずっと続く稲作の機械化貧乏
- スマート農業は、農機器会社が利益を得るのみ
  - 高齢者はドローン操作できず、大型耕運機
    - ・大変な投資、大型収穫機も乗り回せず

### 3. 食料自給ができなくなる事態を回避するには

#### (1) 世界のルールが大幅に変化

- ×自由貿易絶対→各国の政策重視
- ×関税悪 →時刻を守るために有効活用  
トランプの GAFAM 嫌いは理由あり
- Co2 削減が必要→貿易量少なく 地産地消で
- ×ガット時代、生産余剰は赤の補助金→○今自給率向上 OK  
(2008年ガット終わり→地域協定へ)

#### (2) 特に食料は地産地消、旬産旬消

- ・各国との自給率向上

#### (3) SDGs の時代 環境負担は少なく

- 生産：有機農家（環境保全型、調和型）
- 流通：物の輸送は少なく、Food Milage
- 消費：Food Less を少なく ×430万 t 廃棄 (1/3)

#### (4) 世界の有機農業

- EU：2019 Green Deal 政策
- 米：2020/2 農業イノベーションアジェンダ
- 日：2021/5 みどりの食料システム戦略  
7 みどりの食料システム法